

DERWENT- 2000-574692

ACC-NO:

DERWENT- 200054

WEEK:

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Solar heat shield coating material for
buildings and vehicles, comprises a
vehicle and a pigment which is a mixture
of organic and inorganic color pigments
having specific color space values

PATENT-ASSIGNEE: MIKI M [MIKII]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0017046 (January 26, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 2000212475 A	August 2, 2000	N/A	012	C09D 005/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL- DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP2000212475A	N/A	1999JP-0017046	January 26, 1999

**INT-CL
(IPC):** B05D005/06, B05D007/14, C09D005/00,
C09D005/33, C09D007/12, C09D017/00

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Solar heat shield coating material coats all the coating layers and comprises mainly of pigment and vehicle. Pigment is a mixture of organic or organic and inorganic color pigments which show reflection near infrared region. The coating material has sunlight reflection rate of 15% or more according to JIS A5759. Value of L asterisk is 20 or less according to CIE 1976 L asterisk a asterisk b asterisk color space.

DETAILED DESCRIPTION - Solar heat shield coating material comprises pigment and vehicle as principal components, and coats upper coat, middle coat, undercoat or complete electro deposition coating system. Pigment is a mixture of organic or organic and inorganic solar heat shield color pigments which show reflection near infrared region. The coating material has sunlight reflection rate as defined by JIS A5759 as 15% or more. The value of L asterisk is 20 or less according to CIE 1976 L asterisk a asterisk b asterisk color space.

USE - For buildings, ships, vessel deck, marine tank, marine platform, cylinder or spherical tanks, warehouses, gymnasium, motor vehicles, tanker and electrical appliances such as refrigerator.

ADVANTAGE - The solar heat shield coating material shields solar heat for a long period of time and inhibits rise in internal temperature. Air-conditioning expenses are lowered and evaporation exhaustion of the contents are inhibited. The energy

required for coating is also reduced. A predetermined solar heat thermal insulation effect is obtained. Dark coloring is possible, without being limited to black and gray. A clear color tone in arbitrary colors can be obtained.

CHOSEN- Dwg. 0/4

DRAWING:

TITLE- SOLAR HEAT SHIELD COATING MATERIAL BUILD
TERMS: VEHICLE COMPRISE VEHICLE PIGMENT MIXTURE
ORGANIC INORGANIC PIGMENT SPECIFIC SPACE
VALUE

DERWENT-CLASS: G01 G02 H01 M13 P42

CPI-CODES: G01-A08; G02-A05; H01-B01; M13-H;

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C2000-171727

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-425229

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-212475
(P2000-212475A)

(43)公開日 平成12年8月2日(2000.8.2)

(51)Int.Cl.*	識別記号	F I	マーク* (参考)
C 0 9 D	5/00	C 0 9 D	Z 4 D 0 7 5
B 0 5 D	5/06	B 0 5 D	B 4 J 0 3 7
	7/14		N 4 J 0 3 8
C 0 9 D	5/33	C 0 9 D	
	7/12		Z

(21) 出願番号 特願平11-17046
(22) 出願日 平成11年1月26日(1999.1.26)

(71)出願人 399006881
三木 勝夫
埼玉県大宮市天沼町 2-809-4
(72)発明者 三木 勝夫
埼玉県大宮市天沼町 2-809-4
(74)代理人 100078695
弁理士 久保 司

最終頁に統ぐ

(54) [発明の名称] 太陽熱遮蔽塗料

(57) 【要約】

【課題】 空調費の低減あるいは内容物の蒸発減耗の低減を図り、エネルギーの節約に顕著な効果を期待し得るとともに、長期耐久性に優れ、環境衛生上の問題もなく、着色可能で美観も兼ね備える太陽熱遮蔽塗料で、膜厚をそれほど大きくしなくとも所定の太陽熱遮熱効果を発揮でき、また、有機系顔料を使用することで色彩に幅を持たせることができ、さらに、黒、グレーに限定されることなく任意の色に、しかも濃彩色でも、また、冴えた色調も実現可能なものである。

【解決手段】 上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系の全てを、または、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系のうち、中塗塗料を、または、上塗を除いた一部塗料を、顔料とビヒクルとを主成分とし、顔料は近赤外領域で反射を示し、J I S A 5 7 5 9に定義される日射反射率が15%以上であって、かつC I E 1976 $L^* a^* b^*$ 色空間における L^* 値が20以下の有機系または有機系および無機系の太陽熱遮蔽顔料である太陽熱遮蔽塗料で塗装する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系の全てを、顔料とビヒクルとを主成分とし、顔料は近赤外領域で反射を示し、JIS A5759に定義される日射反射率が15%以上であって、かつCIE 1976 L*a*b*色空間におけるL*値が20以下の有機系または有機系および無機系の太陽熱遮蔽着色顔料を複数混合してなる太陽熱遮蔽塗料で塗装することを特徴とした太陽熱遮蔽塗料。

【請求項2】 上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系のうち、中塗塗料を、または、上塗を除いた一部塗料を、顔料とビヒクルとを主成分とし、顔料は近赤外領域で反射を示し、JIS A5759に定義される日射反射率が15%以上であって、かつCIE 1976 L*a*b*色空間におけるL*値が20以下の有機系または有機系および無機系の太陽熱遮蔽着色顔料を複数混合してなる太陽熱遮蔽塗料で塗装することを特徴とした太陽熱遮蔽塗料。

【請求項3】 太陽熱遮蔽着色顔料の黄、赤紫、青で黒色または黒みを出す請求項1または2記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項4】 必要に応じて白色顔料ないし光揮材（アルミ、マイカ等）を少なくとも一種以上含有させる請求項1または請求項2記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項5】 白色顔料は酸化チタン顔料で、必要に応じて白色系体质顔料を含有する請求項1ないし請求項4のいずれかに記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項6】 顔料は分散時平均一次粒子径が30μm以下に分散されている請求項1ないし請求項5のいずれかに記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項7】 热放射、熱反射、又は断熱機能を有する材料を含有させる請求項1ないし請求項6のいずれかに記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項8】 热放射、熱反射、又は断熱機能を有する材料は骨材としての球状中空セラミックで、平均粒径が30μm以下のものを、塗膜全体に対する容積比が2ないし60%の含有量で含有させる請求項7記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項9】 非鉄金属面、金属面、塗装面、プラスチック面に、プレコート、プレボストコート、または、ボストコートする請求項1ないし請求項7のいずれかに記載の太陽熱遮蔽塗料。

【請求項10】 遮熱効果を維持するために各塗装系の最終塗膜に汚染を防ぐ上塗塗料（着色・クリヤー）を塗装する請求項1ないし請求項8のいずれかに記載の太陽熱遮蔽塗料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、船舶のデッキや海上タンク、海上プラットホーム等の海洋構造物、円筒あ

るいは球形タンク等の陸上構造物、住宅、ビル、倉庫あるいは体育館等の建築物、自動車、タンクローリー、冷凍冷蔵コンテナーなどの屋外移動構造物、および冷蔵庫等の家電製品等の外面を被覆し、太陽直射による内部の温度上昇を防止し、冷房、冷凍の効果を上げることによる省エネルギー化あるいは石油やアルコール等の揮発成分の蒸発を防ぐのに好適な太陽熱遮蔽塗料に関するものである。

【0002】

10 【従来の技術】従来より、太陽の日射による建築物等の内部の温度上昇を防ぎ空調費の削減を図ることや、タンカー、天然ガス運搬船、陸上のタンク等の外面を被覆し、内部の揮発性成分の蒸発減量を抑えたり、タンクや家電製品の冷凍効果の改善を図ることが強く要望されていて、酸化チタン等の白色顔料や着色顔料を包含した塗料が使用されていたが、これは白色以外に着色した場合には著しく太陽熱遮蔽効果が減退する。

【0003】また、建築物の屋根やタンクの外面用の塗料として、リン片状アルミ粉を含有するアルミニウムペイントも知られているが、これは色が限定され、耐久性の点でも不十分であり、また、耐摩耗性が悪く歩行する場所に不向きといった欠点を有していた。

【0004】これらの問題を解決するために、三酸化アンチモン、ジクロム酸アンチモン、アルカリ金属ジクロム酸塩等を含有する熱反射エナメルが特開昭56-109257号公報により提案されているが、重金属を含む点で環境衛生上好ましくない。

【0005】また、粒径20~350μのガラス細粒を含有するエマルション塗料、粒径300μ以下の白色顔料含有合成シリカ粒を含有する塗料や粒径5~300μのガラス碎粒を含有する塗料で被覆された金属板の製造法が特公昭55-33828号公報、特開昭55-120669号公報、特開昭55-74862号公報により提案されているが、これらは初期の太陽熱遮蔽効果は優れているものの、表面に凹凸模様を有し、経時での耐汚染性が悪く、汚れにより太陽熱遮蔽効果が著しく低下するといった欠点を有している。

【0006】ところで、特開平1-263163号公報では、耐候性の優れたビヒクルと、太陽熱遮蔽顔料として粒径50μ以下のSiまたはSiとAl、Fe、Mg、Mn、Ni、Ti、Cr、Caのいずれか1種以上との合金1種または2種以上を塗料固形分中に2~50重量%含むことを特徴とする太陽熱遮蔽塗料が示されている。

【0007】また、この特開平1-263163号公報のものはマンセル記号N-2~N-7といった無彩色系グレーであるが、特開平2-185572号公報では、さらには有彩色に関して、着色顔料として複合酸化物系無機質着色顔料を使用し、かつ、上記太陽熱遮蔽顔料と着色顔料の合計が塗料固形分中2~60重量%含有され

ていることを特徴とする太陽熱遮蔽塗料が示されてい
る。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】前記特開平1-263
163号公報や特開平2-185572号公報の太陽熱
遮蔽塗料は、いずれも全塗装系のうち上塗（最外層）に
のみ使用され、中塗、下塗は通常塗料が使用されるもの
であり、その膜厚は1μm以上、好ましくは10μm以
上に被覆することによって優れた性能が得られ、1μm
未満では、下塗塗膜の影響が大きくあらわれて十分な効
果が発揮できず、膜厚の上限はかなりの膜厚になってしま
って効果は良好であるが、あまり厚くしても効果が飽和する
ので10~100μmが好ましいとされる。

【0009】しかも最もその効果を期待される黒につい
ては、カーボンブラック、鉄黒、鋼クロムブラックなど
を使用せねばならず、その場合には太陽熱遮蔽効果が低
くならざるを得ない。

【0010】これに対して所定の太陽熱反射率および平
均粒径を有する赤、橙、黄、緑、青、紫の顔料を組み合
わせる加法混色で得られる低明度の顔料を塗装してなる
ことにより、カーボンブラック等を使用せずにすむこと
も考えられるが、特に有機顔料を用いる場合には、膜厚
が100μm以上と非常に厚い場合には高い反射率を有
するが、20~60μm程度の膜厚では太陽熱遮蔽上塗
塗料の下の層の影響を受けることがある。

【0011】このような下層の影響を抑制するために太
陽熱遮蔽性のよい下地としてアルミニウム下地を選択す
ることも可能であるが、これでは塗料の用途が極めて限
定されてしまう。

【0012】前記特開平2-185572号公報の太陽
熱遮蔽塗料組成物は、ビヒクル及び顔料を主成分とする
太陽熱遮蔽塗料組成物において、ビヒクルとして耐候性
に優れたビヒクルを使用し、太陽熱遮蔽顔料として

(A) 酸化ジルコニウム、酸化イットリウム、酸化イン
ジウム又はチタン酸ナトリウムのいずれか1種以上、

(B) 顔料表面が有機あるいは無機皮膜0.01μm以
上で被覆され太陽熱遮蔽性を発現する物質の1種以上ある
いは(C)酸化ジルコニウム、酸化インジウム、酸化
チタンあるいは酸化珪素のいずれか1種以上と酸化マグ
ネシウム0酸化イットリウム、酸化バリウム、酸化カル
シウム、酸化セリウムあるいは酸化亜鉛のいずれか1種
以上との化合物の1種以上の(A)~(C)から選ばれ
たいずれか1種以上の粒径50μm以下のものを使用す

ると共に、着色顔料として複合酸化物系着色顔料を使用
し、かつ、上記太陽熱遮蔽顔料と着色顔料の合計が塗料
固形分中2~60重量%含有されている太陽熱遮蔽塗料
顔料組成物である。

【0013】このように、特開平2-185572号公
報はとしては、(A)~(C)の白色あるいは淡彩色を
有する太陽熱遮蔽顔料に任意の色に着色可能とするため

着色顔料を併用したするものであり、この(A)~
(C)の存在が必須となっているために、着色顔料を併
用しても濃彩色が出にくく、また、冴えた色調が出な
い。

【0014】また、特開平2-185572号公報では
太陽熱遮蔽着色顔料の他に一般着色顔料も併用されてい
るが、色だしに際し、一般着色顔料が入ると表面温度が
高くなり遮蔽効果が落ちてくる。

【0015】本発明の目的は前記従来例の不都合を解消
し、太陽の日射を受ける陸上、海上の各種構造物、船
舶、建築物、自動車、家電製品等の外面を被覆し、これ
らの内部温度の上昇を抑えることにより、空調費の低減
あるいは内容物の蒸発減耗の低減を図り、エネルギーの
節約に顕著な効果を期待し得るとともに、長期耐久性に
優れ、環境衛生上の問題もなく、着色可能で美観も兼ね
備える太陽熱遮蔽塗料で、膜厚をそれほど大きくしなく
とも所定の太陽熱遮蔽効果を発揮でき、また、有機系顔
料を使用することで色彩に幅を持たせることができ、さ
らに、黒、グレーに限定されることなく任意の色に、し
かも濃彩色でも、また、冴えた色調も実現可能な太陽熱
遮蔽塗料を提供することにある。

【0016】

【課題を解決するための手段】本発明は前記目的を達成
するため、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系の
全てを、または、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗
装系のうち、中塗塗料を、または、上塗を除いた一部塗
料を、顔料とビヒクルとを主成分とし、顔料は近赤外領
域で反射を示し、JIS A5759に定義される日射
反射率が15%以上であって、かつCIE 1976

L*a*b*色空間におけるL*値が20以下の有機系
または有機系および無機系の太陽熱遮蔽着色顔料を複数
混合してなる太陽熱遮蔽塗料で塗装することを要旨とす
るものである。

【0017】本発明は、太陽熱遮蔽着色顔料のみで色出
しをすることにより、色域が広いものとなり、また、高
い遮蔽効果を維持することができる。また、特開平2-
185572号公報のように上塗塗料のみを太陽熱遮蔽
塗料で塗装することはないので、耐水性や耐候性に優れ
ていて長期間熱遮蔽効果を維持する成分として、白色あ
るいは淡彩色を有する太陽熱遮蔽顔料を必須の構成とす
ることも必要ない。

【0018】第2に、必要に応じて白色顔料ないし光揮
材（アルミ、マイカ等）を少なくとも一種以上含有させ
ること、第3に、太陽熱遮蔽着色顔料の黄、赤紫、青で
黒色または黒みを出すこと、第4に、白色顔料は酸化チ
タン顔料で、必要に応じて白色系体质顔料を含有するこ
とを要旨とするものである。光揮材との組み合わせてメ
タリック仕上げが可能となる。白色系体质顔料を入れる
ことで、塗料としては柔らかい作業性のよいものとな
る。

【0019】第5に、顔料は分散時平均一次粒子径が30μm以下に分散されていること、第6に、熱放射、熱反射、又は断熱機能を有する材料を含有させること、第7に、この材料は骨材としての球状中空セラミックで、平均粒径が30μm以下のものを、塗膜全体に対する容積比が2ないし60%の含有量で含有させることを要旨とするものである。顔料は分散時平均一次粒子径が30μm以下に分散されていることにより、自動車や家電製品の塗装に適するように膜厚を薄く、綺麗にことができる。骨材を含有させることで反射効果を向上させることができる。

【0020】特に、骨材に球状中空セラミック、いわゆるバルーンを使用することで、表面反射と内部中空面での2重反射で反射効率をより高めることができ、また、中空断熱で断熱機能を高めることができる。図3は球状中空セラミックの場合、図4は他の骨材の場合を示す。この球状中空セラミックは平均粒径が30μmを超えると塗膜に凹凸が生じる。

【0021】第7に、非鉄金属面、金属面、塗装面、プラスチック面に、プレコート、プレポストコート、または、ポストコートすること、第8に、遮熱効果を維持するために各塗装系の最終塗膜に汚染を防ぐ上塗塗料（着色・クリヤー）を塗装することを要旨とするものである。本発明は下地素材に限定されるものでなく、幅の広い選択が可能となる。さらに、塗装もプレコート、プレポストコート、または、ポストコートと種々選択できる。また、汚染を防ぐ上塗塗料を塗装することでセルフクリーニング機能、撥水機能を発揮させることができる。

【0022】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。本発明は、顔料とビヒクリトを主成分とする太陽熱遮蔽塗料であり、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系の全てを、または、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全塗装系のうち、中塗塗料を、または、上塗を除いた一部塗料を、中塗塗料、または、上塗を除いた一部塗料をこの太陽熱遮蔽塗料で塗装する。

【0023】本発明で使用するビヒクルは、耐候性の優れたビヒクルで、耐質黄変性、耐保色性、光沢保持性および耐白亜化性等の耐久性に優れ熱遮蔽効果を長期間維持できるビヒクルを指す。

【0024】ビヒクルは、水系で、酢酸ビニルエマルション、アクリルエマルション、シリコン変性アクリルエマルション及びフッ素エマルション、溶剤系では、アルキッド樹脂、ポリエステル樹脂、アクリル樹脂、シリコン変性ポリエステル樹脂、シリコン変性アクリル樹脂、シリコン変性アルキッド樹脂、シリコン樹脂、フッ素樹脂の少なくとも一種以上と、必要に応じて硬化剤として酸、イソシアネート、メラミン樹脂の一種以上とを含有する、粉体系では、ポリエステル樹脂、アクリル樹脂、

フッ素樹脂、塩化ビニル樹脂、エポキシ樹脂の少なくとも一種以上と必要に応じて硬化剤として、アミン、酸、イソシアネート等を一種以上を含有するものから適宜選択する。

【0025】顔料は、近赤外領域で反射を示す着色顔料であり、JIS A5759に定義される建築用熱線遮蔽及びガラス飛散防止フィルムで規定されている分光反射率($R_{\lambda i}$)により算出される350~2100nmの領域における日射反射率が15%以上であって、かつ

10 CIE 1976 L*a*b*色空間におけるL*値
が20以下の有機系または有機系および無機系の太陽熱遮蔽着色顔料である。

【0026】有機系着色顔料としては、下記のものから選定する。

太陽熱遮蔽顔料1：（黄色）SYMULER FAST YELLOW 4192
ベンツイミダゾロン
大日本インキ工業（株）製

太陽熱遮蔽顔料2：（赤色）FASTONGN SUPER RED 500RG
キナクリドン

20 太陽熱遮蔽顔料3：（赤色）FASTONGN SUPER RED ATY
ジアミノアンスラキノニル
大日本インキ工業（株）製

太陽熱遮蔽顔料4：（黄色）FASTONGN SUPER VIOLET RV
S ジオキサジン
大日本インキ工業（株）製

太陽熱遮蔽顔料5：（赤紫色）FASTONGN SUPER MAGENTA
R キナクリドン
大日本インキ工業（株）製

30 太陽熱遮蔽顔料6：（青色）FASTONGN SUPER BULE 6070
S インダンスロン
大日本インキ工業（株）製

太陽熱遮蔽顔料7：（青色）FASTONGN BULE RSK フタロ
シアニン α
大日本インキ工業（株）製

太陽熱遮蔽顔料8：（青色）FASTONGN BULE 5380 フタ
ロシアニン β
大日本インキ工業（株）製

40 太陽熱遮蔽顔料9：（緑色）FASTONGN GREEN MY ハロゲ
ン化フタロシアニン
大日本インキ工業（株）製

【0027】無機系着色顔料としては、下記のものから選定する。

太陽熱遮蔽顔料A：（黄色）イエロー10401 C
E R D E C社製
(黄色)イエロー10408 C E R D E C社製

太陽熱遮蔽顔料B：（赤）ブラウン10348 C
E R D E C社製

太陽熱遮蔽顔料C：（緑）グリーン10405 C
E R D E C社製

50

7

太陽熱遮蔽顔料D：(青) ブルー 10336
E R D E C 社製

太陽熱遮蔽顔料E：(紫) ブラウン 10364
E R D E C 社製

太陽熱遮蔽顔料F：(黒) ブラウン 10363
E R D E C 社製

【0028】なお、被覆される顔料基材については、特に限定されるものでないことはいうまでもないが、例えば、マイカ粉、アルミニウム粉等の鱗片状顔料や、酸化チタンあるいは酸化マグネシウム、酸化バリウム、酸化カルシウム又は酸化亜鉛等が好ましい物質である。

【0029】前記有機系または無機系の各種顔料を必要により2種以上併用してもよいことはいうまでもない。また、太陽熱遮蔽顔料の粒径は、耐汚染性の点から30μm以下であることが必要であるが、特に20μm以下であることが望ましい。30μmを超える粗い粒子の顔料を使用すると、塗膜に細かい凹凸が生じ、特に凹部に塵埃、煤煙等が付着し、塗膜表面が汚染され易くなり、太陽熱遮蔽効果の維持が困難となる。

【0030】なお、太陽熱遮蔽着色顔料の粒径については、特に限定されるものではないが、近赤外領域で反射を示す太陽熱遮蔽顔料と同程度であることが好ましく、耐汚染性の点から30μm以下、特に20μm以下であることが望ましい。粗い粒子の顔料を使用すると、塗膜に細かい凹凸が生じて塗膜表面が汚染され易くなり、太陽熱遮蔽効果が阻害されるおそれがあるのは近赤外領域で反射を示す太陽熱遮蔽と同様である。

【0031】さらに、以上のような太陽熱遮蔽顔料と太陽熱遮蔽着色顔料の合計使量が塗料固形分中2~60重量%の範囲内であるとする。該顔料使用量が合計2重量%未満の場合には太陽熱遮蔽効果にかけ、また、60重量%を超える場合には塗膜中の顔料量が多くなりすぎて耐白化性が悪くなり、この結果耐候性に欠けること*

〔1. アルミ箔(代表)〕

品名	メーカー	粒径
1) アルペースト 7640 NS	東洋アルミニウム(株)	17μm(平均)
2) アルペースト 7640 NS	東洋アルミニウム(株)	19μm(平均)

〔2. マイカ(代表)〕

品名	色	粒径	メーカー
1) イリジオン 103WII	ホワイト	10~40μm	メルク (Merck)
2) イリジオン 121WII	ホワイト	5~25μm	メルク (Merck)
3) イリジオン 111WII	ホワイト	15μm	メルク (Merck)
4) イリジオン 205WII	干渉ゴー ルド	10~40μm	メルク (Merck)
5) イリジオン 205WII	ブロンズ	10~40μm	メルク (Merck)

〔3. 着色アルミ〕

品名	メーカー
1) ブレンドカラーF-500WT	昭和アルミニウム(株)

【0036】前記近赤外線領域で反射を示す太陽熱遮蔽※50%顔料、太陽熱遮蔽着色顔料、白色顔料ないし前記光揮材

8

*なる。この場合、ここにいう固形分とは、塗料組成物の中で加熱しても揮発又は蒸発しない物質を意味し、一般的には塗膜となるべき成分を指すものであって、具体的には顔料、ビヒクル中の樹脂分、その他の添加剤を指すものである。

【0032】また、本発明においては、前記の太陽熱遮蔽着色顔料に加え、白色顔料として二酸化チタン顔料を併用し、明度の調整を行うこともできる。さらに、必要に応じて白色系体质顔料を含有するものとする。白色顔料GとしてはタイペークCR-97(石原産業(株)製)が好適である。

【0033】また、低明彩色を得る目的で黒色顔料を微量用いることができるが、一般に用いられるカーボンブラックでは太陽熱遮蔽効果が著しく損なわれるので、太陽熱遮蔽着色顔料の黄、赤紫、青で黒色または黒みを出す。

【0034】さらに、光揮材であるリン片状物質を少なくとも一種以上含有させることもある。リン片状物質として、径が50μ以下以下の例えばガラスフレーク、マイカ等が用いる。なお、リン片状の金属としては、例えばステンレス、アルミニウム箔等も市販されているが熱伝導率の点でガラスフレーク、マイカが優れている。またその大きさは50μ以下特に20μ以下であることが好ましい。50μを超えるとリン片状物質によって塗膜に凹凸を生じ、上層塗膜に悪影響を及ぼすと共にリン片状物質が平らにならばぬことにより断熱性の効果、耐食性の効果も低減する。特にこの物質が20μ以下ではビヒクルとの割合を適正な値とすることによりリン片が塗膜面と平行にならび、この結果ち密な層が形成され水透過の行路が延長するいわゆるラビリンス効果が生じ、これによって耐食性が向上すると共に断熱性の効果も向上する。

【0035】この光揮材は下記のものから選択する。

11

した乗用車にフードに温度測定センサーを設置して表面温度を測定した結果である。塗色はブルーメタリック。【0049】なお、遮熱効果を維持するために各塗装系の最終塗膜に汚染を防ぐ上塗塗料(着色・クリヤー)を塗装することもある。この上塗塗料はできるだけ顔料を少なくした塗料であり、例えば、1. 汚染性の少なくフッ素樹脂塗料、2. 親水性を付与したセルフクリーニング塗料、3. 搾水性を付与した塗料(フッ素系搾水剤)である。親水性を付与したセルフクリーニング塗料とし*

白色顔料G: (白) タイペークCR-97 石原産業(株)製

一般黒色顔料H: (黒) ラーベン 1300 キャボット社製

H2: (黒) カーボンブラック 三菱化成(株)製

アルミI: アルペースト7640NS 平均粒子径17μm 東洋アルミ(株)製

アルペースト7620NS 平均粒子径19μm 東洋アルミ(株)製

マイカJ:

① イリオジン 103WII ホワイト 粒径10~40μm メルク社製

② イリオジン 121WII ホワイト 粒径 5~25μm メルク社製

③ イリオジン 111WII ホワイト 粒径 15μm メルク社製

④ イリオジン 205WII 干渉ゴールドト 粒径10~40μm メルク社製

⑤ イリオジン 500WII ブロンズ 粒径10~40μm メルク社製

中空ビーズK マイクロビーズ HSC110 東芝バロティーニ(株)製

体质顔料 バリファイン P-20 境化学(株)製

一般ブルーM シャニンブルーG314 山陽色素(株)製

一般グリーンN デオノールグリーン6YKPN 東洋インキ製造(株)製

着色アルミ ブランドカラーF-500WT 昭和アルミニウム(株)

※【表1】

【0051】

※

塗料配合	ビケル	固形分配含量(重量%)						日射反射率(%)	
		有機系太陽熱遮蔽顔料					一般黒 カーボン H		
		1	2	5	8	9			
1	50	10						57	
2	50		10					56	
3	50			10				57	
4	50				10			37	
5	50					10		40	
6	50	3		3	3			57	
7	50						5	5	

【0052】

★ ★ 【表2】

塗料配合	比	固形分配合量(重量%)													
		太陽熱遮蔽顔料						白色 顔料	一般黒 顔料	アルミ	マイカ	中空 ビーズ	体管 顔料	一般 ブーク 顔料	一般 カーブ 顔料
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	50	10													70
2	50		10												70
3	50			10											32
4	50				10										34
5	50					10									72
6	50						10								69
7	50							25							80
8	50								5						5
9	50									10					50
10	50										10				53
11	50							20				5			85
12	50							20				5	5		85
13	50			7						7					49
14	50				7						7				51
15	50	5						20							82
16	50		5					20							80
17	50												10		20
18	50													10	22

【0053】また、上塗、中塗、下塗もしくは電着の全 * 【0054】
塗装系での膜厚は下記表3の通りである。 * 【表3】

被 膜 系	膜厚	塗色	ダークブルー
		外気温37°Cでの静止実験テスト	
		ルーフ外面最高温度	車内最高温度
一般電着塗料	15-20 μ		
一般ポリエステル中塗塗料	30-50 μ	81°C	75°C
一般ポリエステル上塗塗料	30-50 μ		
合計	75-120 μ		
一般電着塗料	15-20 μ		
一般ポリエステル中塗塗料	30-50 μ		
一般アクリルメタリックベース	15-20 μ	82°C	74°C
一般アクリルクリアー	20-30 μ		
合計	80-120 μ		
遮熱電着塗料			
遮熱ポリエステル中塗塗料	30-50 μ	67°C	54°C
遮熱ポリエステル上塗塗料	30-50 μ		
合計	75-120 μ		
遮熱電着塗料	15-20 μ		
遮熱ポリエステル中塗塗料	30-50 μ		
遮熱アクリルメタリックベース	15-20 μ	67°C	56°C
遮熱アクリルクリアー	20-30 μ		
合計	80-120 μ		
一般電着塗料	15-20 μ		
遮熱ポリエステル中塗塗料	50-60 μ		
遮熱アクリルメタリックベース	15-20 μ	68°C	57°C
遮熱アクリルクリアー	20-30 μ		
合計	100-130 μ		
一般電着塗料	15-20 μ		
遮熱ポリエステル中塗塗料	60-70 μ		
一般アクリルメタリックベース	15-20 μ	67°C	57°C
一般アクリルクリアー	20-30 μ		
合計	110-140 μ		

【0055】電着塗料は、水溶性分散樹脂と顔料をサンドグラインミルにて分散し、分散後エポキシエマルション、イソシアネートと混合した。

【0056】中塗、上塗塗料は、ベッコゾールAF-1378-65〔大日本インキ化学工業(株)製〕をビヒクルに用い、太陽熱遮蔽顔料を添加し、キシレン、メチルブチルケトン1:1の混合溶剤を用いてサンドグラインミルにて分散後ユーバン128〔大日本インキ化学工業(株)製〕を混ぜて塗料とした。

【0057】前記表1および表2における日射反射率の測定は、JIS-A-5759にのっとり株式会社日立製作所製 自記分光度計で分光通過率を測定し算出した。

【0058】試験片は、塗料を溶剤で粘度調整し、スプレーでアート紙に塗装した後、焼き付けて色見本を作成*

電着塗料（太陽熱遮蔽顔料配合）

* 16

【0059】表2における配合割合は下記の通りである。

顔料 表2の1~18

ビヒクル 50 g

40 ベッコゾールAF-1378-65 [大日本インキ化学
工業(株)製] ポリエステル樹脂
ユーバン128 [大日本インキ化学工業(株)製] メ
ラミン樹脂

溶剤 30 g

3mmのガラスビーズ 100g

の割合でペイントシェーカーを使用した1時間分散して作成した。

【0060】次に、実車テストに使用した塗料の配合例を示す。

〔重量部〕

17

水溶性分散樹脂	〔東都化成(株)製〕(エポキシ樹脂)	20
太陽熱遮蔽顔料(黄色)	SYMULER FAST YELLOW 4192	
ベンツイミダゾロン	〔大日本インキ工業(株)製〕	10
(赤紫色)	FASTONGN SUPER MAGENTA R キナクリドン	
〔大日本インキ工業(株)製〕		10
(青色)	FASTONGN SUPER BULE 6070S インダンスロン	
〔大日本インキ工業(株)製〕		10
エポキシエマルション	〔東都化成(株)製〕	55
イソシアネート	〔日本ボリウレタン(株)製〕	5
(合計 固形分		100)

中塗塗料(太陽熱遮蔽顔料配合)

〔ビヒクル〕		
ベッコゾールAF-1378-65	〔大日本インキ化学工業(株)製〕	35
ポリエステル樹脂		
ユーバン128		15
メラミン樹脂	〔大日本インキ化学工業(株)製〕	
タイマーCR-97 酸化チタン	〔石原産業(株)製〕	45
(黄色)	SYMULER FAST YELLOW 4192	
〔大日本インキ工業(株)製〕		1
(赤紫色)	FASTONGN SUPER MAGENTA R キナクリドン	3
〔大日本インキ工業(株)製〕		
(青色)	FASTONGN SUPER BULE 6070S インダンスロン	1
〔大日本インキ工業(株)製〕		
(合計 固形分		100)

上塗塗料(太陽熱遮蔽顔料配合) ダークブルー

〔ビヒクル〕		
ベッコゾールAF-1378-65	〔大日本インキ化学工業(株)製〕	65
ポリエステル樹脂		
ユーバン128		25
メラミン樹脂	〔大日本インキ化学工業(株)製〕	
(赤紫色)	FASTONGN SUPER MAGENTA R キナクリドン	3
〔大日本インキ工業(株)製〕		
(青色)	FASTONGN SUPER BULE 6070S インダンスロン	1
〔大日本インキ工業(株)製〕		
(合計 固形分		100)

【0061】実験方法はテスト塗装した乗用車(カローラ)を炎天下に静止させ、温度測定センサーを設置して車の表面温度、室内温度を測定した。	*	本発明の太陽熱遮蔽塗料
【0062】図1、図2に、ドライバンに本発明の太陽熱遮蔽塗料、および一般塗料を1台ずつ塗装し、温度センサーを設置して車の上部表面温度を1ヶ月間測定した記録を示す。中塗塗料は白系、上塗塗料がクリーム色で実車走行した時の記録である。	40	素材 メッキ鋼板 塗料 下塗 一般エポキシプライマー 15 μm 中塗 遮熱アクリル中塗塗料 70 μm 上塗 一般アクリル中塗塗料 30 μm
【0063】	*	115 μm
		一般塗料 素材 メッキ鋼板 塗料 下塗 一般エポキシプライマー 15 μm 中塗 一般アクリル中塗塗料 70 μm 上塗 一般アクリル中塗塗料 30 μm
		115 μm

車と、一般塗料を使用した車では約20°Cの温度差がある。

【0065】

【発明の効果】以上の実施例の結果からも明らかなように、表面温度では著しい効果がみられ、本発明によれば太陽の直射を受ける船舶、各種建造物の外面を覆すことにより、長期間太陽熱を遮蔽し、内部の温度上昇を抑制し、空調費の改善あるいは内容物の蒸発消耗を抑制して、エネルギーの節減に顕著な効果を期待しうる太陽熱遮蔽塗料ならびにその塗装が可能となるものであり、産業の発展に貢献するところ極めて大なるものがある。

【0066】これに加えて、膜厚をそれほど大きくしなくとも所定の太陽熱遮熱効果を発揮でき、また、有機系顔料を使用することで色彩に幅を持たせることができ、

さらに、黒、グレーに限定されることなく任意の色に、しかも濃彩色でも、また、冴えた色調も実現可能なものである。

【図面の簡単な説明】

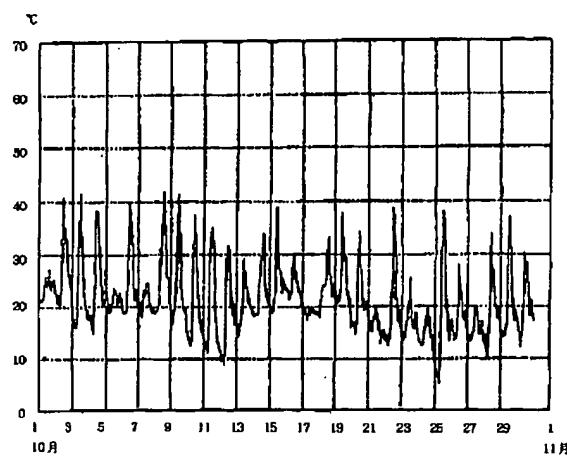
【図1】ドライバンに本発明の太陽熱遮蔽塗料を塗装し、温度センサーを設置して車の上部表面温度を1ヶ月間測定した記録を示すグラフである。

【図2】ドライバンに一般塗料を塗装し、温度センサーを設置して車の上部表面温度を1ヶ月間測定した記録を示すグラフである。

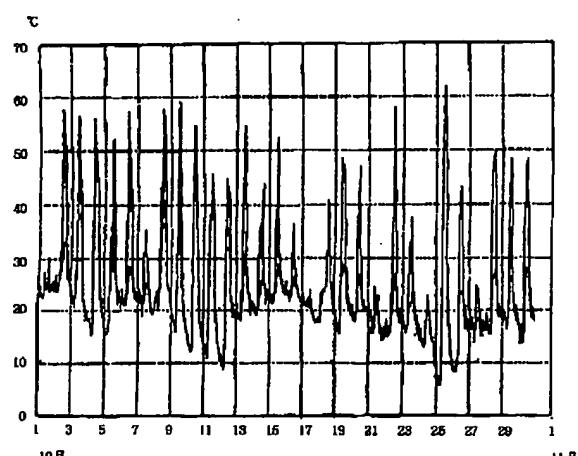
【図3】骨材として球状中空セラミックを使用した場合の説明図である。

【図4】一般的骨材を使用した場合の説明図である。

【図1】



【図2】

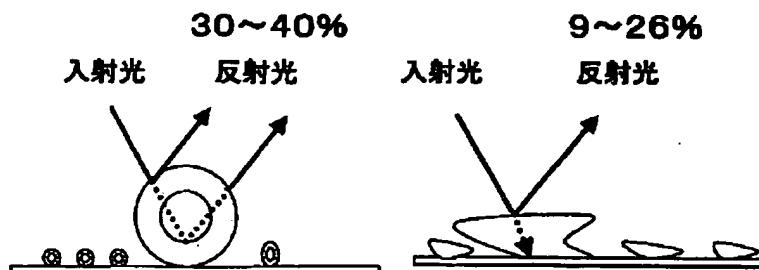


測定場所	測定間隔	データ数	最高値°C	最低値°C	平均値°C
ルーフ前	10分	4320	42.0	5.2	21.3
ルーフ後	10分	4320	41.8	5.0	21.0

測定場所	測定間隔	データ数	最高値°C	最低値°C	平均値°C
ルーフ前	10分	4320	61.0	5.0	24.8
ルーフ後	10分	4320	58.3	5.7	22.7

【図3】

【図4】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	FI	マーク-ト(参考)
)			
// C 0 9 D 17/00		C 0 9 D 17/00	
F ターム(参考)	4D075 AE03 CA17 CB13 DA06 DB02 DB14 DB31 DC05 DC08 EA43 EC02 EC04 EC10 EC11 EC30 EC53 EC54 4J037 AA05 AA09 AA10 AA22 AA26 DD05 FF13 4J038 CD091 CF021 CG141 CJ291 DD001 DD231 DD241 DL031 HA066 HA196 HA206 HA216 HA546 KA03 KA08 KA12 KA20 KA21 MA09 MA10 MA14 NA01 NA03 NA05 NA15 NA19 NA27 PA04 PA07 PB05 PB07 PB09 PC02 PC04 PC08		